

2016
(平成 28 年)

Miyakojima City
Public Relations 広報

4

No. 127

みやこじま



ていだ
海、風、太陽
熱き想い
君を待つ

2016.4.17 SUN
START AM7:00

第32回全日本トライアスロン宮古島大会



STRONGMAN®



今月の主な内容



宮古島市イメージキャラクター
「みーや」

- 平成 28 年度 施政方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P2
- 国内希少野生動植物種 ミヤコカナヘビを守ろう・・・・・・・・P11
- 宮古島市高齢者外出支援タクシー利用助成事業について・・・・P14
- 水道料金等のお支払いがコンビニでもできるようになりました・・P15



施政方針

～心躍る夢と希望の島づくり～

平成
28年度

◎3月議会で、下地市長が述べた平成28年度「施政方針」を紹介します◎

はじめに

平成28年第2回宮古島市議会の開会にあたり、市政運営についての私の基本的な考え方と主要な施策の概要をご説明し、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

昨年は、離島振興をはじめ沖縄の山積する課題の解消に向け、国と沖縄県の早期の関係改善が求められる中、本市においては、平成17年の合併から10周年の節目を迎えたことから、記念式典・祝賀会をはじめ、ふるさとまつりなど各種記念行事を開催し、新たな10年の飛躍発展に向け、市民と共に大きく歩み出した一年でありました。

昨年1月に開通した伊良部大橋は、伊良部の住民をはじめ圏域住民の40年に亘る夢の実現であり、一年が経つた今、まさに宮古圏域の振興発展の鍵を握る交通の要衝となっております。伊良部大橋は、今後、市民生活の利便性の向上はもとより、地域経済の活性化に大きな役割を果たすものと期待しています。

経済においては著しい活性

化が見られた一年でありました。観光は、スカイマークの撤退により影響が懸念されましたが、伊良部大橋効果と併せて、国内外で展開した誘致・宣伝活動、観光施設など受け皿環境の充実化、そしてクルーズ船の就航により入域観光客は、堅調に推移し、50万人の大台を突破することが事実となっております。

農業は、葉たばこが台風により大きな被害を受けましたが、畜産は子牛取引で最高価格の更新が続出するなど一年を通し高価格で推移したことから、宮古のセリ取引額が史上最高の38億円余に達しています。また、36年ぶりに沖縄県畜産共進会が本市で開催されるなど、活気に満ちた一年でありました。

基幹作物であるサトウキビは、台風の影響が相次いだことから影響が懸念されましたが、春植え、株出し栽培の推進、そして機械化の促進により例年並の収穫が見込まれています。

水産業は、老朽化が著しい伊良部漁協の荷さばき施設の早期整備に向け取り組んでいるところであります。

福祉・医療については、子

育て支援の充実を図るため、平良児童館を整備することも、「子ども・子育て支援制度」の強化に取り組み、認定子ども園の開設支援、一時預かりや子育て支援拠点の充実を図りました。またフクチンの副作用が疑われる対象者に対し、渡航費等を助成し支援したところであります。

教育は、学校規模の適正化を進めているところでありますが、保護者をはじめ市民の理解が着実に進んでいます。また児童・生徒の学力及び体力の向上が見られ、保護者・地域と一体となった取り組みの成果が着実に現れています。

大型プロジェクト事業も着実に進展しています。懸案となっていた新ゴミ処理施設は4月の供用開始に向け試験運転を始めています。一括交付金を活用して整備を進めているスポーツ観光交流拠点施設は、来年4月の供用開始に向け工事が順調に進んでいます。また、図書館・公民館の複合施設として整備する未来創造センターについては、用地の取得が完了し、いよいよ新年度早々に建設工事に着手します。

本市における人口減少要因を的確に捉え、活力ある地域社会の形成を促進するため「人口ビジョン・総合戦略」を策定しました。今後は、総合戦略で示す各施策の実現に向け、市民や企業と協働で推進してまいります。

平和を希求する国民、市民の願いもむなし、我が国周辺においては、中国による尖閣諸島海域における領海侵犯は常態化し、北朝鮮は挑発的なミサイル発射を再開するなど、隣国の脅威は一段と増しております。

私は、このような緊迫した現状を目の当たりし、市民の生命財産と平和を守るためにも、自衛隊の配備は必要であると考えています。

不法投棄ゴミの処理問題については、市民そして議会の皆様にも多くの疑問と不信を与えていることに対し、深くお詫び申し上げます。今後は、この問題の徹底解決を図り、早期の信頼回復に努める所存であります。

平成28年度は、市長就任2期目の最終年でありませんが、将来を担う子ども達の育成、地域経済の活性化、そして暮らしよい市民生活の充実に向け、全力を上げて取り組む所存であります。

それでは、市政運営にあたっての基本的な考え方を申し上げます。

第一章 市政運営にあたっての基本的な考え方

①島の新たな発展を支える活力ある産業振興と雇用拡大の促進

本市は、若者層の流出により人口減少が続く中で、産業振興による雇用の創出、交流人口の拡大により人口の減少に歯止めをかけ、そして若い世代の出産・子育て支援等を重点的に取り組むことにより、人口増加による活力の維持と発展を図るため「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

基幹産業の農業については、畑地やかんがい排水施設など生産基盤の整備は着実に進展しています。農家の高齢化が一段と進んでいることから、後継者となる担い手の育成を強化し、経営の効率化を図るため経営規模の拡大及び機械化を促進するなど、先進的農業の展開を推進します。

肉用牛については、生産基盤の拡充や、優良繁殖雌牛群の整備を推進することも子牛の育成率向上対策を促進します。また、新食肉センターが4月から供用開始することから、宮古産食肉牛の供給体制の確立に取り組んでまいります。水産業については、生鮮水産物

の輸送費の助成を継続して行うとともに、海業センターや漁協等の水産基盤施設の整備に取り組みます。

昨年10月大筋合意したTPPについては、農業分野への影響が懸念されていることから、国、県に対し新たな制度を創設するなど、支援策の充実を図るよう関係機関と連携して取り組んでまいります。

観光振興については、入域観光客が目標としていた50万人を超え、さらに今年クルーズ船の入港回数が大幅に増加することが予定されており、60万人を超えることが見込まれています。そのため受入体制の確立が喫緊の課題となっていることから、宮古空港ターミナル及び港湾施設の拡張整備と併せ、Wi-Fi環境の整備に取り組んでまいります。

また、新たな産業基盤の拠点として期待される下地島空港の活用計画が大きく動き出すことから、沖縄県と連携し、事業計画の実現に取り組んでまいります。

②子ども達の健やかな成長を支える結いの島づくりの推進と地域福祉の充実

子どもの貧困問題は、本市の重要な課題であることから、生活支援や保護者の就労支援など総合的な対策を強化します。また、子ども・子育て

て支援制度の充実を図るとともに、新年度から小学校入学前の子育ての一体的な支援に向けての取り組みを始めてまいります。

福祉的支援等を必要とする市民に対しては、小地域ネットワークの構築支援等を図り、安心して生活出来る地域社会づくりに取り組めます。また、高齢者の地域における通いの場の創設・充実を図り、生きがいを持つて暮らせる環境づくりを進めます。

③地域資源を活かした循環型社会の推進と快適な居住環境の形成

生活を支える地下水など、多様な自然環境を保全するため、市民や島を訪れるすべての人々と連携し、資源循環型の自然と調和する島づくりを継続して推進します。

ラムサール条約登録湿地である与那覇湾については、与那覇湾環境整備総合計画に基づいた環境の改善と関連施設の整備を進め、貴重な動植物の保護と干潟の保全を図り、有効な活用に取り組めます。

また、「Ecoアイランド宮古島推進計画」に基づき、環境・エネルギー関係事業の検証を行い、Ecoアイランド宮古島の具現化を推進します。天然ガスについては、試掘調査等を踏まえた活用計画を策定し、天然

ガスや付随水の実用化を促進してまいります。

第二章 重点施策

①地域活力の基盤となる産業振興と雇用の拡大

基幹産業である農業については、TPPの影響緩和策を国に対し強く要望してまいります。併せて、強い農業づくりに向け生産性の向上を図るため、平良のすな地区、城辺の大牧西地区、下地の入江東地区など9地区で区画整理事業及び畑地かんがい施設の整備を行います。

また、今年度から、新たに下地の来間南地区、伊良部の佐和田地区等で農地の保全整備に着手するとともに、継続して下地の内原北地区などの3地区の防風林帯施設を整備し、農地の浸食防止と、塩害や風害対策の強化を図ります。併せて、ほ場への農業用水の安定的な供給のため、老朽化が進んでいるかんがい施設の改修等を行い、長寿命化に取り組んでまいります。伊良部地区においては、かんがい施設の整備によって、水利条件が飛躍的に向上することから、下地島の農業ゾーンを含めた農地の基盤整備を積極的に進め、環境に

配慮した新たな農業生産拠点の形成を推進します。

サトウキビについては、株出栽培の反収と品質向上を図るため、株出管理機作業の普及を進め、春植え・株出栽培の一体的な栽培体系を推進します。また、農家の高齢化に伴う労働力不足に対処するため、作業の省力化を図るためのハーベスター等の導入を促進するとともに、法人経営体等による農作業の受委託制度を推進します。併せて土壌病害虫の防除、緑肥・有機質肥料による土づくりなど、地力の増強のための各種助成を引き続き行い増産体制を強化します。

園芸作物については、着実に生産量が伸びて来ていることから、引き続き、施設整備を促進するとともに、高品質な園芸作物を計画的・安定的に供給できる体制を整備し、ブランド産地化を促進します。併せて拠点産地としての魅力を高めることに、担い手の育成・確保に向け、新規就農者の支援を強化します。

畜産については、昨年の肉用牛販売実績が過去最高となりました。今後は、子牛の拠点産地確立に向け、育種価の高い優良繁殖牛の確保を図り品質の向上を促進します。併せて、畜舎の環境・衛生対策を強化します。また、新食肉センターが4月から稼

働し、宮古産牛肉の供給体制が整うことから、肥育農家の育成と経産牛の肥育支援を行い、宮古牛のPRに努めます。

また、近年、海外からの観光客が増加し、家畜伝染病の侵入が懸念されることから、空港・港湾等における家畜伝染病の侵入防止対策を強化します。

水産業については、生鮮水産物の輸送費の助成を引き続き実施するとともに、アサ、クルマエビ、モズク等の販売促進に取り組みます。また、漁場整備に加えアサ加工施設や海ぶどう集出荷施設等を整備し、養殖業等の活動を支援することにも、新規就業者の育成、新たな加工品の開発等を進めます。

また、伊良部海業支援施設を整備し、漁業と観光業がリンクした6次産業の振興を図ります。さらに漁協の体質強化に向け、引き続き3漁協の統合に取り組みます。

観光については、東京羽田ー宮古路線の増便や関西ー宮古路線の通年運航、那覇ー宮古路線の増便、そして機材の大型化が予定されており、加えて、クルーズ船の寄港回数も100回前後と大幅に増える見込みであることから、国内外からの観光入域客が飛躍的に増加することが期待されます。このような観光需要

の大幅な増大に対応するため、港の再整備、島内輸送手段の安定供給、Wi-Fiの整備、観光施設の整備等、受け入れ体制を強化します。下地島空港と周辺用地については、民間事業者が具体的な活用計画を提案しており、その実現に向け、県と連携を図りながら取り組んでまいります。

商工業については、伝統工芸品である「宮古上布」の振興を図るため、後継者育成や宮古上布織物従事者団体の活動を支援し、生産の拡大や技術の継承に努めます。

また、宮古島市公設市場の活性化に向けた取り組みを支援し、近隣の商店街と連携した集客力のある商店街の形成を促進します。

特産品のPRと販路の拡大を促進するため、ふるさと納税制度を充実するとともに、県内外で開催される物産展及び離島フェア等において、地元特産品のPRと販売活動を積極的に展開します。

②医療福祉の充実と、安心・安全で潤いのあるまちづくり

今年度は、第2次地域福祉計画のスタートの年であることから、人・地域が相互に支え合う仕組みづくりを構築するため、「コミュニティ・ソーシャルワーカーを増員し地域福祉の向上に努めます。

たに鏡原小学校の増築及び狩俣小学校屋内運動場の改築も継続して実施します。また、引き続き各小・中学校の特別教室へ空調機器を設置するとともに、普通教室への空調機器設置へ向けた調査を行い順次導入します。併せて、幼稚園、小・中学校施設等の危険箇所改良、修繕等を行い、安心・安全な教育環境の充実に努めます。

伊良部地区小中一貫校については、開校に向けて「統合協議会」と連携した取り組みを継続してまいります。

生涯学習については、各公民館で講座や教室を開催するとともに、サークル活動を推進します。また、青少年情操教育の一つとして、新潟県上越市板倉区や岐阜県白川町、台湾台中市との交流事業を実施します。

文化ホールの自主文化事業として実施しているメディアライブに、新たにダンス部門を設け、児童生徒のダンスを通じた文化の創造・振興に取り組むとともに、総合博物館の企画展・特別展・子ども博物館などを開催し、市民や観光客に提供します。

併せて、新たな博物館建設に向けて基本計画の策定に取り組むとともに、市民の生涯学習や地域情報の発信拠点となる未来創造センターについては、平成30年4月の供用開始に

障がい福祉については、入院する重度心身障害児(者)の家族の介護負担を軽減するため、障がい者等入院時意思疎通支援事業を開始します。

子どもの医療費については、対象児童が医療機関等で受診した際、医療費の一部を助成します。併せて、母子及び父子家庭等を対象とした医療費の助成事業を実施し、負担の軽減を図ります。

市民の健康保持については、本市の平均寿命が県内最下位となっていることから、乳児から成人までの肥満対策が急務となっています。そのため、学校、企業・地域が相互に連携した取り組みを促進し、市民の自立的な健康づくりや食生活改善を推進するとともに指導者の育成に努めます。

併せて、住民検診等の受診率の向上を図り、各種予防接種についても高齢者肺炎球菌、高齢者インフルエンザ等の接種費の一部助成を継続し、接種率の向上に取り組んでまいります。

また、安心して子どもを産み育てる環境を整備するため、建設費の一部を援助し、産婦人科医の開業を支援します。

子宮頸がん予防ワクチン接種の副反応疑いのある症状を持つ方に対する渡航費等の支援を行うとともに、

向け工事に着手します。

文化財については、「アラフ遺跡」の学術的発掘調査、「砂川元島遺跡」及び「宮国元島遺跡」の再整理を行います。また、国指定遺跡「大和井」の適切な保存管理のため、指定範囲の土地を購入し、史跡の公有化を進めます。

さらに、「宮古島らしさ」に特化した文化財を中心に、伝説と民話に彩られた口マン溢れる散策コースを整備するほか、新たに、伊良部地区に関する情報を文化財ウェブサイトに関組み込みます。

④快適な居住環境の形成

伊良部大橋の開通と観光客の増加に伴い、人・物の流れが大きく変化しつつあることから、交通ネットワークの機能向上に向け、市街地の幹線道路である大道線の改良を継続するとともに、荷川取線の整備に着手し、市民及び観光客が安心・安全に利用出来る交通体系の確立を推進します。

また、下崎く西原線、添道1号線、A176号線の道路改良を継続するとともに、新たに富名腰12号線や伊良部15号線、棚根線などの道路改良を実施します。併せて、道路の幅員が狭く歩道が無い道路等についても車両の交通や歩行者の安全・利便性の向上を図ります。また、市の管理す

がん及び指定難病、特定不妊治療等についての渡航費の支援を継続して実施します。

また、市民が一体となって恒久平和を希求するため、昨年初めて実施した戦没者の合同慰霊祭を実施するとともに、平和展や児童・生徒のメッセージ展などを引き続き行います。

③島の将来を支える多様な人材の育成と文化の振興

市の将来を担う子ども達の育成は最も重要な政策であります。教育委員会等と広く連携を図ることが必要であることから、教育政策を担当する「政策参与」を新たに配置し、教育環境の整備等、教育施策の充実に図ります。

沖縄県の子どもの貧困率は全国に比べ突出して高く、本市においても重要な行政課題となっています。そのため、新規に子ども貧困対策として、支援員の配置や子どもの居場所づくりを促進し、教育を受ける機会の均等化、生活支援、保護者の就業支援など総合的な対策を強化していきます。

保育については、認可外保育施設の認可化を促進するとともに、市立幼稚園の全園児の午後の預かり保育についても引き続き実施し、待機児童の解消に努めます。併せて子ど

もの発育に対応した適切な保育を進め、保育サービスの充実に努めます。

また、ファミリー・サポート・センター事業により、母親の育児の相互援助活動を支援します。

幼児教育については、各幼稚園の特色ある教育を推進することにも、保育所等との連携体制を強化します。また小学校への円滑な接続を推進するため引き続きアドバイザーを配置します。

学校教育については、児童生徒の「生きる力」を育成するため、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスのとれた教育を推進することにも、学力の向上、教育相談体制の強化、特別支援教育の充実に取り組みます。また、地域社会と連携して基本的な生活習慣を身につけさせることにも、次代を担う子ども達の創造性・国際性を育成します。

さらに、幼稚園、小・中学校の魅力ある学校づくりの取り組みを支援するとともに、教育現場における情報通信技術の活用に向けての取り組みを広げていきます。また、今年度から、新しい授業学習スタイルの確立に取り組み、教職員の指導力及び資質向上を図ります。

教育環境の整備については、学校規模適正化の基本方針に基づく長期整備計画との整合性を図りつつ、新

る6つの橋について長寿命化点検調査を実施するほか、道路施設老朽化対策点検調査を行い維持管理に努めます。さらに、上野海岸線及び新里21号線の道路改良と併せ、無電柱化事業を引き続き行います。

住む人にやさしい安全・安心な居住空間を創出するため、カママ嶺・パインガマ公園のバリアフリー化を進めます。また、住宅の改修・補修等のリフォームを実施するとともに、空屋等の実態を調査し、「宮古島市空屋等対策計画」の策定に向けて取り組みます。併せて、西城団地の整備を継続して実施し、池間添団地等3つの地区の公営住宅の整備を進めてまいります。

宮古圏域の物流の拠点港として重要な役割を担っている平良港については、今後も、大型クルーズ船等、国内外からの観光客の増加が見込まれることから将来を見据えた港灣整備に向け、国や県と連携した取り組みを進めます。また、平良港漲水地区の、臨港道路中央線、埠頭用地埋め立て造成、緑地整備を継続して実施します。

与那覇地区、伊良部地区に続き、池間地区の防災センターが今年4月に供用開始となり防災機能は着実に向上しつつあります。県立宮古広域公園についても、下地前浜地区での整備決定に加え、防災機能を備えた公園整備に向けて、県に働きかけて

まいります。また、地域における自主防災組織の結成を促進し、市民の防災意識の高揚に努めます。

水道については、主要施設の新設・更新・改良と並行して耐震化を進めるとともに、公共下水道についても幹線・枝線工事を実施し、普及促進を図ります。併せて、施設の長寿命化計画に基づき、改修・修繕等を推進します。

また、複雑多様化する救急事案の増加に対応するため、高度な救命措置が行える救急救命士の育成確保及び、バイスタンダー（現場に居合わせた者）の育成のため、市民へのAEDを使用した応急措置の普及・啓発に取り組み救命率の向上に努めます。進し、教職員の指導力の向上に努めます。

⑤地域の活動と市民参加のまちづくりの推進

地域づくり活動を支援するため、地域の個性や資源等を活かした活動を展開する地域づくり協議会等の団体活動を支援します。また、平良地域においては、市民が「自ら考え、自ら実践する」地域づくり支援事業の公募を行い、地域の活性化に意欲的な団体に対して活動を支援します。そのほか、自主的で個性豊かな地域づくり活動を展開している、狩俣地区を昨年に続きモデル地区とし

て支援します。

また、新たに、自治公民館建設事業補助制度を創設し、地域住民の活動の拠点となる公民館建設を支援するほか、自治公民館等の活動に必要な備品等の購入についても支援します。

さらに、事故の防止や犯罪の防止を図るため、防犯灯や防犯カメラを設置し、市民生活の安全安心の確保に向け市民と協働による取り組みを強化します。

また、防犯協会等が推進する「美ぎ酒飲み運動」や「ちゅらさん運動」等を積極的に推進し、安心して暮らせる地域づくりに努めます。

水難事故については、夏場のマリッジジャーでの事故が多発していることから、「宮古島市水難事故防止推進協議会」の活動を強化し、水難事故ゼロの達成に向け関係機関と連携を図ってまいります。

男女共同参画社会の形成に向けて、男女平等観を育む教育・学習機会を提供し、女性の社会参画を推進することも、男性の育児や介護等への参加を促す機会を創出する等、第2次宮古島市男女共同参画計画「ついで、ずうプラン」を推進します。

⑥環境に配慮した資源循環型社会の推進

市民の生活を支える地下水など、

入するなど、財政運営の効率化に努めたことにより、各種基金の造成が100億円を超えるまでに健全化が図られています。

私は「地域の均衡ある発展」を市政運営の柱に掲げ、財政の健全化を手始めに、市民が安心して暮らせるまちづくりを推進するとともに、農・漁業、観光産業の振興を基盤とした地域経済の活性化を推進するなど、本市の振興発展に向け多くの種を蒔いてまいりました。

その成果は、観光客の大幅な増加をはじめ、島外企業の進出に向けた動きが活発化するなど、島全体の飛躍的發展に向け大きく展望が開けています。

平成28年度は、今任期の最終年であり、私は、「心躍る夢と希望の宮古島」そして「心つながり結（ゆ）いの島 宮古（みやこ）」の実現に向け、向こう一年間、約束した公約及び新市建設計画に掲げた施策を着実に推進し、今任期の総仕上げとしたいと考えています。

最後になりますが、市民の皆様、そして市議会議員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。私の施政方針と致します。

平成28年3月2日

宮古島市長 下地敏彦



▲将来を担う子ども達の育成は最も重要な政策課題となっている



▲伊良部大橋開通による各産業の飛躍的發展が期待されている



大橋、クルーズ船等により国内外の観光客の増加が見込まれる▼

また、「第2次集中改革プラン」を検証し、「第2次行財政改革大綱」及び「第3次集中改革プラン」を策定し、引き続き行財政改革を推進します。

行政組織については、福祉部と教育委員会を分担している未就学児に関する業務の一元化を目指して、児童家庭課に「子ども政策係」を新設

おわりに

平成21年1月に市長に就任して7年が経ちました。就任時、市政運営の根幹である財政状況は厳しい状況でありました。そのため、財政負担の少ない高率補助事業を積極的に導